



卒業・・・幸せとは何だろう？

校長 永堀 善之

3月12日（火）、第75回卒業証書授与式が挙行されました。子どもたちの式に臨む、「真剣な姿勢や引き締まった表情」「大きな返事や歌声」。コロナ禍の中で頑張ってきた40名の卒業生にふさわしい、厳粛さの中にも温かさや爽やかさのある式でした。卒業生全員がマスクを外して式に臨んでいたこともあり、これから精一杯頑張ろうという気持ちがダイレクトに伝わってきて、本当にうれしい気持ちになりました。また、来賓の皆様にも久しぶりにご臨席いただくなど、晴れの門出にふさわしい式にすることができました。

さて、式辞の中で、「幸せの四条件」という話をさせていただきました。「日本理化学工業」というチョーク製造では業界最大手の会社（日本のチョークの約7割を製造）があるが、その会社は決して大企業ではなく、従業員の7割以上は知的に障がいをもつ方を雇用している、そこに至った経緯や、幸せとは何かについて、以下のような話をしました。

なぜ、この会社が7割を超える障害を持つ方を雇用しているかという、今から65年前の昭和34年、当時専務だった大山泰弘さんのもとに、隣にあった特別支援学校の先生が「15歳の卒業生を採用してほしい」とお願いに来られたことがきっかけでした。大山さんは自信がなく何度も断ったのですが、3度目に先生が「就職は諦めましたが、これだけは聞いてください。この子達はまだ15歳ですが、就職ができないと、このままずっと施設に入ることになります。しかも東京には施設が少ないので地方の施設に入ります。だからせめて、人が働くとはどういう事か、その事を是非体験させてやりたいのです。何日間かでも結構ですからお願いいたします。」こう言われ、結果2人の生徒を2週間預かることになりました。そしてその2週間の間、一生懸命に働く姿を見た従業員の方が、「ぜひ採用してあげてください」と大山さんにお願ひし、次の年から2人は正社員として働くことになりました。

その数年後、ある法要で、隣に座られた旧知のご住職に、大山さんは質問をします。「2人は、遅刻もせずに毎日会社に来て一生懸命働いているのです。仕事で失敗して“今日は帰ってもいいよ”という泣いて嫌がるのです。施設で大事に面倒を見られた方が幸せだと思うのですが、それがとても不思議なのですよ」と。

その時住職は言います、「それはそうです。人間の究極の幸せは4つあります。人に愛されること。人に褒められること。人の役に立つこと、そして、人に必要とされることです。そのうち、人から褒められること、人の役に立つこと、人に必要とされることは、なかなか施設では得られません。それらは、一生懸命働き、仕事をすることによって得られるのです。だから2人は頑張るのではないですか」と。

その言葉に感銘した大山さんは、「そうか、人間の幸せは、人に褒められ、人に必要とされて働き、人の役に立ち、自分で稼いで自立することなのだ。」と思い、それを企業の使命として、障がいのある人を採用し続けたのです。

この話を知り、私の中で、人から褒められ、必要とされるのはどういう時かと考えてみました。それは、一生懸命真面目に頑張り、その結果、人の役に立った時ではないかと考えるに至りました。そして、人間は、人の役に立った時、また自立して人から褒められ、必要とされた時に幸せを感じるのではないかと考えるようになりました。

皆さんには、今日から、目の前のやるべきこと・やりたいことに一生懸命に取り組んで欲しい。
・・・一生懸命頑張っている人を見ると、勇気をもらえますから。・・・ 【一部抜粋の上、加筆しています。】

考え方はそれぞれでしょうが、「幸せ」はその多くが他者との関わりを通して得られる感情だと私は思っています。温かい中にも厳しさを持った家庭や地域で、信頼できる大人に囲まれて育ち、豊かな経験とつまずいた時の支えを持っている子は幸せです。また、誰かに必要とされ、役に立ち、心から褒めてもらえるような場面が生活の中で多くあれば良いとも感じています。来年度末で、本校はいよいよ閉校となります。最後まで、本室蘭中（生徒も教職員も）が頑張ることで、少しでも誰かの役に立ち、喜んでもらうことで幸せを与えられる、そして、我々も幸せになれる・・・そういう1年にしたいと考えています。保護者・地域の皆様、今年度も学校へのご理解・ご協力、本当にありがとうございました。

第 75 回卒業証書授与式 3/12

(写真掲載)

コロナ禍以前の形に戻し、多くの保護者の方々や来賓の皆様にご参列いただき中で、卒業証書授与式が行われました。

卒業生は入学した時からマスク生活を長く強いられましたが、この式の最中は全員がマスクを外し、3年間で大きく成長した晴れやかな姿で、堂々と卒業証書を受け取りました。

また、卒業生の合唱、そして在校生と共に歌った「ふるさと」が披露されると、参列した方々の多くの胸に感動が広がりました。卒業生 40 名が、これからも多方面で活躍されることを心からお祈りしています。

(写真掲載)

また、来年度はいよいよ本室蘭中学校最後の卒業証書授与式となります。在校生の皆さんには、この1年、先輩方が築きあげてきた長い歴史に誇りを持ち、さらに進化した本室蘭中学校につながるように、活躍できる機会をたくさんつくってほしいと期待しています。

地域の方々とともに学ぶ 防災学習

3 学年の家庭科では、「地域での協働を目指して」「家族や地域の高齢者との関わり」を学ぶ学習単元があります。そこで、2/29(木)の家庭科の授業で、地域の方々と一緒に防災学習を行いました。

室蘭市防災課からお二人の講師をお招きし、「地域の人たちと関わろう！～地域のためにできること～」というテーマで、非常時に中学生が地域の力となる大切さを学んだり、段ボールベッドの設営を体験したりしました。

また、災害時に起こる様々なことを想定した【クロスロード】というゲームでは、地域の方と対話を通して交流を図り、学習を深めました。

(写真掲載)

参加した白鳥台連合町会の田村博文会長から、「今回、中学生が助ける側に回れる人材だと改めて実感した。これからもお互い交流を深め、助け合えば良いと思う」(室蘭民報 3/15 より)との感想をいただきました。

今後も、地域の皆様と学習や体験を行う機会を増やすことで、生徒たちの深い学びにつなげていきたいと考えております。

僕たちは少子高齢化が進んでいる社会で支える立場に立つ側なので、これから地域の防災活動やボランティアに自ら積極的に参加しなければならないと思った。また、地域の方と協力することで、一人でするより救えるものが多くなるということを学んだので、協力していきたい。



同じ地域に暮らしている人たちでも、普段は登下校のときに挨拶をするくらいしか関わることがなかったけど、今回の防災学習でお話することができて楽しかったです。



4 月行事予定

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 8日(月) 着任式 始業式
(スクールバス 12:10) | 18日(木) 全国学力・学習状況調査(3年)
一斉委員会 |
| 9日(火) 入学式 (スクールバス 11:40) | 19日(金) 参観日・学級懇談会
PTA総会 |
| 10日(水) 1年生を迎える会 学級写真
会議のため部活動なし | 22日(月) いじめアンケート
部活動集会(入部申込 締切) |
| 11日(木) 会議のため部活動なし | 23日(火) 教育相談(4/24、25、26、5/2 も実施) |
| 12日(金) 身体測定(全学年) | 24日(水) 1年心臓健診 |
| 15日(月) 一斉委員会 視力検査週間 ~19日 | 25日(木) 尿検査1次 |
| 16日(火) 会議のため部活動なし | 30日(火) 会議のため部活動なし |
| 17日(水) 学級議案書審議 | |

進級・入学後、新生活に早くなれるためにも、生活習慣の確立を！

家庭でのスマホ等の使用について

室蘭市教委で、情報端末（以下スマホ等）の使用に関するアンケートを実施しました。以下は、本室蘭中学校の結果です。

□自分専用のスマホ等をもっている生徒は「66%」

□生徒と保護者に同じ質問をしたところ、意識の差があると感じられた項目

- | | | |
|-----------------------------|------------|------------|
| ①平日情報端末を使用している時間2時間以上である。 | 【生徒】 75.0% | 【保護者】 60.4 |
| ②SNS等のやりとりが原因で嫌な思いをしたことがある。 | 【生徒】 17.0% | 【保護者】 7.7 |
| ③オンラインゲーム等で課金をしたことがある。 | 【生徒】 59.0% | 【保護者】 19.0 |
| ④インターネット上だけの友達がいる。 | 【生徒】 40.9% | 【保護者】 26.0 |
- ※「わからない」も含

生徒たちは、**保護者が感じている以上に、スマホ等で自分の世界をもっている**ことがわかります。

また、生徒・保護者ともに、**【スマホ等によって生活に悪い影響を及ぼしていること】**として、

「勉強時間」と回答することが最も多く見られました。

春休みになり、家庭で過ごす時間が増える中で、**好きなように好きなだけスマホの世界に入ること**

とがどれだけ危険か、心配されるところ

必ず、各ご家庭でスマホ等の使用については**「保護者の目が届く環境で使用」「使用についてルールを設定する」「学習や睡眠の時間に大きな影響を与えない」**など、管理をお願いします。安全で充実した生活の中で、進級に向けた準備を進めてください。

離任される先生方より

この3月で3名の先生方が本室蘭中学校を離任されます。

○歳前康浩 先生 【苫小牧市立青翔中学校へ】

担任を受け持つ機会に多く恵まれ、生徒のみなさんの成長を近くで感じることができたことをとても嬉しく思います。部活動においても、練習に汗を流し、大会で活躍する姿に感動させられました。生徒のひたむきさ、素直さを肌で感じると共に、保護者の皆様の温かいご協力をいただき、充実した日々を過ごすことができたことに感謝いたします。ありがとうございました。

○伊藤裕子 先生 【苫小牧市立明倫中学校へ】

本室蘭中学校での六年間は、支援学級の担任や進路の担当など、生徒の頑張りを間近に感じ、共に成長させていただくことができました。特に、顧問をさせていただいた合唱部が、二年連続で全国大会に出場したことは忘れられない思い出です。いつも生徒や保護者の皆様、地域の方に支えられたことに感謝いたします。本当にありがとうございました。

○辻 育郎 先生 【洞爺湖町立虻田中学校へ】

「大勢の観客へ礼の後、憧れだった指揮台に立ち生徒達を見ました。すると皆光り輝く美しい表情で見返してくれました。その時“ああ、全てが通じあった”そんな不思議な感覚に陥りました。」これは、私がこの学校に来てから一番感動した NHK ホール全国大会での瞬間です。字数制限されていたので全て書けないのがとても残念ですが、他にも普段の生活で感動の場面が沢山ありました。生徒、保護者の方、地域の皆様本当にありがとうございました。

